

University of Shizuoka Magazine

 静岡県立大学広報誌

No.137

2018.July

はばたき

特集

コミュニティフェロー誕生
校歌の作詞者 小川国夫

メッセージ

尾池和夫 静岡県公立大学法人理事長

キャンパストピックス

平成30年度入学式
中国2大学との大学間交流協定締結

CONTENTS

- p01 **特集① コミュニティフェロー**
- p05 **特集② 校歌と小川国夫**
- p07 **理事長からの挨拶**
- p08 **CAMPUS TOPICS**
・平成30年度入学式
・留学生ガイダンス
・開学記念事業
・就職内定率発表
・THE 世界大学ランキング
・公開シンポジウム「これからの東アジアを占う
一日中韓は連携を強化できるのかー」
・食品・経情合同セミナー
「生活の中の安全を考えてみよう」
・日本とロシアの宗教観の共通点を探るワークショップ
・モバイルファーマシー
・HPS養成週末講座
・中国の東華大学と延辺大学との大学間交流協定
・第31回剣祭、第21回橘花祭の告知
- p13 **研究室訪問**
・短期大学部こども学科
・永倉研究室
- p15 **活躍する卒業生**
・食品栄養科学部栄養生命科学科
・薬食生命科学総合学府環境科学専攻
- p16 **産学民官連携**
- p17 **図書館だより**
・図書館で活躍する学生／私の一冊の本
- p18 **Information**
・受賞/教員人事



地域とともに コミュニテ



成長 フェロー誕生!



静岡県立大学コミュニティフェロー

本学では、学生がゼミ活動やCOCセンターの活動あるいはサークル活動などを通じて、主体的にフィールドワークを行い、コミュニティ・ワーク力を培うことを目指しており、知識要件と技能要件を満たした学生をコミュニティフェローに認定するとともに、特に顕著な者を特別表彰する制度を平成29年度に創設しました。



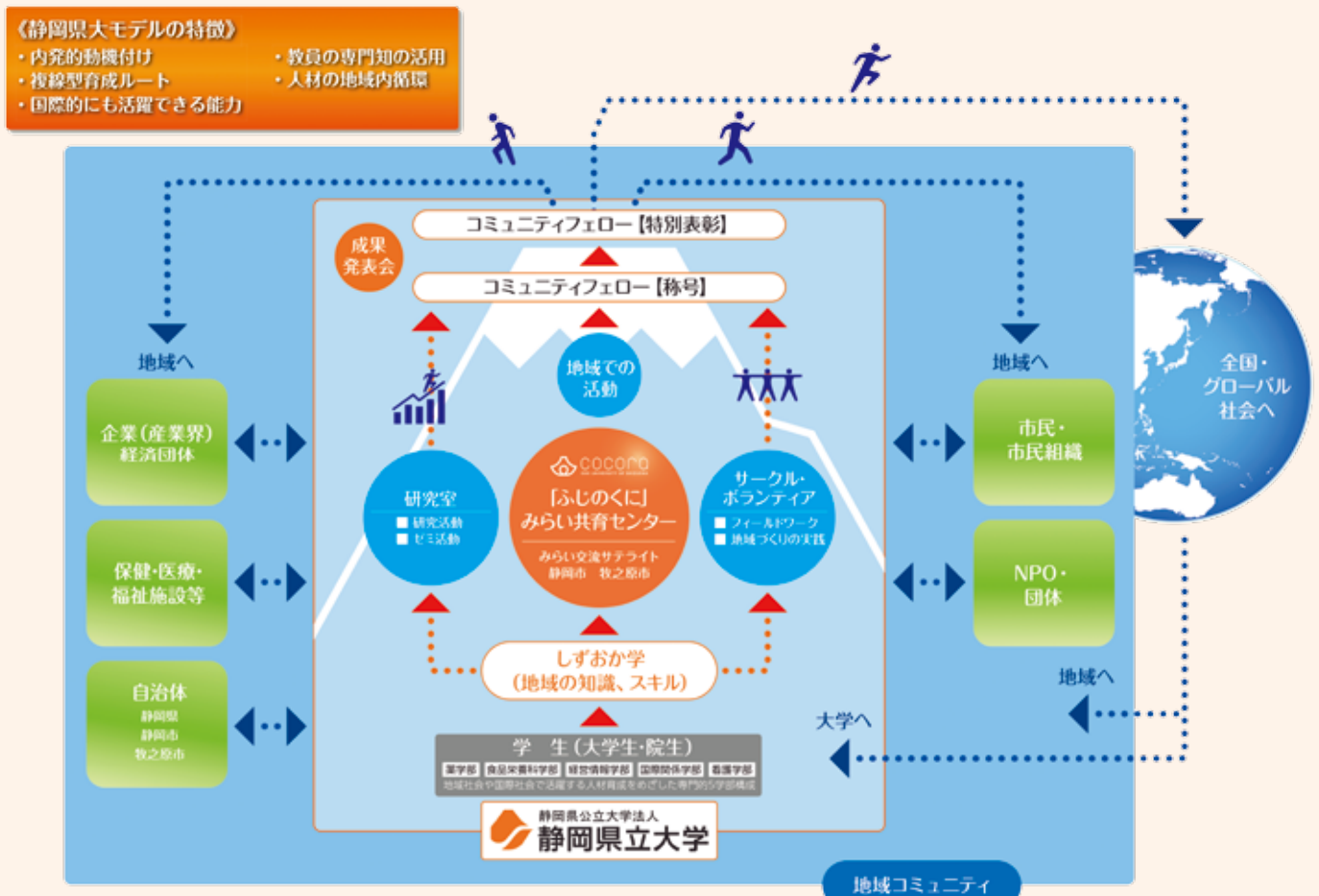
平成29年度 コミュニティフェロー特別表彰の 学生とその活動紹介 (順不同)

～ 複線型ルートによる多様なフィールドでの活動事例 ～

「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）では、地域とともに、世代・分野・職種を越えた「チーム活動」を牽引する「コミュニティ・ワーク力」を備えた人材の育成を進めており、学生が卒業後も地域で継続的に活躍し、その成果を本学学生に還元する、人材の循環型システム（下図「地域志向の人材育成の静岡県立大学モデル」）の構築を通じた地域貢献活動を展開しています。

そして、これらを効果的に推進するため、平成29年度に学生に対する認定制度を設け、平成30年3月に、178名の学生を初めてコミュニティフェローに認定するとともに、その活動においてリーダーシップを発揮しチームを牽引するなど、特に顕著な実績を上げた学生に、審査のうえ、学長が特別表彰を授与しました。

地域志向の人材育成の静岡県立大学モデル（図式）【通称：静岡県大モデル】



研究室(ゼミ)活動からの表彰

国際関係学部 細川光洋研究室 4年 澤野 華世子

「地域資源としての文学」をテーマに掲げる「焼津&八雲YYプロジェクト」において主導的な役割を果たした。焼津市や地域NPOと協力し、小泉八雲作品朗読会の開催、八雲スケッチによる妖怪手拭いの制作、焼津市公式LINEスタンプの共同制作などを行った。平成28年度「地域みらい研究賞」受賞。(写真は焼津浜通り常照寺での朗読会「耳なし芳一」)



経営情報学部 岩崎邦彦研究室 4年 小泉 蓮

岩崎ゼミの代表として地域貢献活動をリードし、「大学生によるお店コンサルティング事業」(静岡市役所連携)では市長から感謝状を受け、「アグリビジネス・コンサルティング事業」(県農業法人協会連携)では農業者のマーケティング力強化に貢献した。加えて、「知財活用プレゼン全国大会」で日本一の栄冠に輝くなど、その成果は顕著である。



COCセンターの活動からの表彰

「高校生への地域防災教育」での活動

薬学部 6年 筒井 優介

「静岡救命連携演習」で自身が学んだ防災知識を基に、藤枝東高校の生徒へ災害シミュレーションゲームの実施を通じて防災指導を行った。地域防災についての説明を行った後、ゲーム実施の際は全体の司会とサポートとして参加した大学生のまとめ役を務め、リーダーとして活躍した。



「大浜ビーチフェスタ」での活動

食品栄養科学部 4年 瀬尾 真紀子

環境生命科学科の1期生として、学科生を中心としたサークルを立ち上げ、地域事業に参画した。静岡科学館で科学コミュニケーター活動を行う中で、大浜ビーチフェスタへ実行委員として加わることとなり、県の事業によって復活した大浜海岸を、市民にアピールした。



「羽衣つたえ隊」の活動

国際関係学部 4年 松井 杏美

「羽衣」つたえ隊として清水港での英語版「羽衣」絵本朗読や能「羽衣」の授業を実施した他、清水港での外国人観光客対象のボランティアガイドの実施、官学連携企画「清水区100通りの健康レシピ」制作(平成29年度地域みらい研究賞受賞)等、清水区活性化のための諸活動を行った。



サークル・ボランティア活動からの表彰

「環境サークルCO-CO」の活動

食品栄養科学部 3年 村松 可菜

人と自然が共生する社会をめざし、放置竹林問題に取り組む「CO-CO」の部長として、静岡市清水区大内の地域住民とともに、里山の地域づくりに貢献した。その活動が認められ、平成29年度森林レクリエーション地域美化活動コンクールにおいて、林野庁長官賞を受賞。県内のイベント等で、竹のワークショップを行い、活動の意義を伝えている。



「防災ボランティアクラブ防'z」の活動

看護学部 4年 松田 佳子

静岡市消防団第13分団管轄地域で、地域防災訓練に参加し、看護学の視点から、災害時の安全確保や包帯法、AEDの使用法、救急救命法(胸骨圧迫・人口呼吸法)などの知識普及に積極的に貢献し、リーダー的役割を果たした。継続的なこの活動は、地域からの信頼も厚く、地域住民から高く評価されている。



本学の校歌「わが夢を超えて」の作詞者 ～没後10年に寄せて～

小川 国夫

(撮影・相田昭)



静岡県立大学校歌 「わが夢を超えて」

作詞・小川国夫

- 1 なが胸の強き羽音は
いずこ行く愛のしるしか
思いやる、そのあこがれは
さすらいの傷鉛の疲れ
されどなれは
- 2 なが胸のあらたな波は
大洋(おおうみ)の送る便りか
われも見ろ、その風景は
星空深く骨をそよがす
されどなれは
未知へ行く船具ととのう
- 3 なが胸のひそかな声は
憂え抱く夜のささめきか
われも泣く、その疑いは
霧に障(さ)えられ崖に閉ざさる
されどなれは
身に重き試しを逃げず
- 4 なが胸の血潮に射すは
つぎの代を照らす光か
われは待つ、純粹が
明澄の日をもたらすことを
われは待つ、その創造が
わが夢をなお超え行くことを

東京大学在学中のフランス留学から 帰国後、作家の道へ

小川国夫(1927～2008)は、昭和2年に藤枝市に生まれ、志太中学(現・藤枝東高校)時代から藤枝カトリック教会のフランス人神父たちと交流し、流暢なフランス語を身に付け、旧制静岡高等学校時代にカトリックの洗礼を受けます。その後、東京大学国文学科在学中の昭和28年にフランスへ渡り、パリのソルボンヌ大学とグルノーブル大学で約3年間の留学生活を送ります。この留学中にフランスだけでなくスペイン、イタリア、ギリシャ、北アフリカのモロッコなど地中海沿岸諸国をスクーターで旅しますが、これだけの広域を大学生が一人で旅することは、

当時では非常に稀でした。この留学中の光と闇の交錯する豊かな体験が、その後発表する小説の題材となります。帰国後すぐ作家活動に入り、10年程の無名時代を経て、昭和40年に『アポロンの島』が作家の島尾敏雄に激賞されたことから、作家として注目を浴びることになりました。



(撮影・相田昭)

郷土愛と小説

藤枝生まれ藤枝育ちの小川国夫は、自らを「枝っ子」と称する郷土愛の持ち主でした。

藤枝の地で執筆活動が続けた小川国夫の文学世界は大きく3つに分かれています。一つは聖書的世界に基づいたもの、もう一つは故郷を舞台にしたもの、三つ目は私小説的性格の強いものです。小川国夫の小説は、聖書とヨーロッパを題材とした作品をのぞき、ほとんどの作品が藤枝、焼津、大井川

河口域など、郷土である駿河湾西岸を舞台としています。その文学の魅力は、内面をみつめる深い眼差しと人間性を浮き彫りにする凝縮された文体にあります。昭和44年「ゲヘナ港」が芥川賞候補作となるも辞退。昭和61年「逸民」で第13回川端康成文学賞、その後も数々の賞を受賞して戦後の日本を代表する作家の一人となり、平成20年4月8日に80歳でこの世を去るまで、およそ60年の間、言葉に命をかけた作家でした。

藤枝市文学館

藤枝市蓮華寺池公園にある藤枝市文学館には、小川国夫の書斎が復元されています。小川家から寄贈された小川国夫直筆の原稿や愛用品の展示をはじめ、毎年4月の「逸民忌」（小川国夫の命日）にあわせて企画展が開催され、小川国夫の文学にふれることができます。藤枝市文学館の職員で小川国夫との親交も深かった澤本行央さんは、小川国夫品の重要なテーマのひとつとして「愛と信と望」を挙げています。「愛すること」（無償の愛）、「信ずること」、「希望を持

つこと」——それらは、本学の校歌「わが夢を超えて」の歌詞からも感じ取れるとのこと。



藤枝市文学館にある小川国夫の書斎の復元

藤枝市郷土博物館・文学館
〒426-0014 静岡県藤枝市若王子500
電話：054-645-1100

小川国夫 作品案内

本年は、本学の校歌作詞者である作家小川国夫の没後十年にあたります。学生時代の欧州留学体験や郷土の風景を作品に描いた小川国夫の文学世界は、国際的な視野の広がりや地域からの視点の両面を併せ持ちます。本学図書館にも多くの小川国夫の本があります。ぜひ手に取って、読んでみてください。

『アポロンの島』（講談社文芸文庫）

『地中海の慰め 旅と物語の思い出』（小澤書店）

『小川国夫全集』全14巻（小澤書店）



『あじさしの洲／骨王』

小川国夫自選短篇集（講談社文芸文庫）

4月1日に就任された 尾池和夫新理事長の メッセージ

今回、理事長就任にあたり、私も新入生としてこれから静岡県立大学について、しっかりと学んで参ります。

本学は、1916年に設立された静岡女子業学校を源流として、静岡女子大学、静岡女子短期大学の流れを見ると、早期から女子の高等教育が実現している歴史を有することがわかります。理念である「県民の誇りとなる価値ある大学」の実現のために、教育、研究、地域貢献、国際交流において、それぞれに先端をめざした活動を、私も行っていきたいと考えています。

私は、地球科学を専門とする研究者です。日本列島は4つのプレートが集まってくる変動帯にあって、地震、噴火、津波などの大規模な自然現象があり、それによって豊かな自然の恵みを受けて私たちは暮らしています。その視点からみると、静岡県は大変特徴的な地域であり、富士山や豊かな海などに代表される素晴らしい静岡県の自然環境の中で、学生生活を大いに楽しんでほしいと思います。在学の期間はあっという間に過ぎていきます。学習とともに静岡県内を歩いて、その魅力を世界へ発信できる人となって、卒業していただきたいと思っています。

何と言いましても、心身の健康に留意して、学生生活を思い切り楽しく送ってください。

(2018年4月5日入学式理事長あいさつ抜粋)



<尾池和夫理事長略歴>

高知県出身。1963年、京都大学理学部地球物理学科卒業。京都大学理学部地球物理学科教授、理学部長、第24代京都大学総長、京都造形芸術大学学長などを歴任。静岡県との関わりでは、2018年3月まで日本ジオパーク委員会委員長として、伊豆半島ジオパークのユネスコ世界ジオパーク認定に向けた活動でも力を発揮。主な著書に「2038年南海トラフの巨大地震」「四季の地球科学 日本列島の時空を歩く」など。

尾池和夫新理事長句集

夏草や
発掘されし
関の声

水槽に
鯰寝てるる
昼の地震

一日を
使ひきつたる
夏椿



(俳人・尾池和夫)
尾池理事長は、句集も出版される俳人の顔も併せもちます。今回、「夏」を題材に詠んだ句を紹介します。

平成30年度入学式

4月5日、静岡市駿河区のグランシップで、学部・大学院、短期大学部の合同入学式を開催しました。学部生653人、大学院生131人、短期大学生121人、計905人が新たなスタートを切りました。

鬼頭宏学長からの式辞では、昨年、本学が開学30周年を迎え、次の30年に向けて新しいスタートを切ったことから、未来の日本と世界に思いを馳せ、「20年、30年先には、どんな時代、どんな社会が待っているのでしょうか。どんな社会をみなさんは創ろうとしているのでしょうか。みなさんが新しい時代の主人公であることを自覚して大い

に活躍していただくことを期待しています。」と激励しました。

経営情報学部の名久井南奈さんが新入生を代表し、「私は将来、中小企業診断士になり、企業がこれまでよりも発展するための一助になりたいと考えています。静岡県立大学では、経営や情報、総合政策など幅広い学問を学ぶことができます。私は、この恵まれた環境を活かし、物事を多角的に見る力を養い、将来は企業の持つ力が最大発揮できるよう、専門的な助言をしたいと考えております。」と、志高く決意を述べました。

入学式に続き、チアダンス部、アカ



学長式辞

ペラサークル、ジャズダンス部のクラブ・サークル紹介が行われ、新入生にとって、先輩たちの生き生きとした姿に触れる機会となりました。



式典の様子



誓いのことば

留学生のための交通安全講習会の開催

本学には、現在、正規生、非正規生を合せて、81人の留学生が在籍しており、出身国も中国、インドネシア、韓国、ベトナムなど12か国に及んでいます。

学生室では毎年4月に、新たに入学する留学生を対象としたガイダンスを開催し、学生生活を送る上で大切なことをお知らせしていますが、平成27年度からは、清水ロータリークラブのみなさまの御協力をいただき、ガイダンスと併せて交通安全講習会を開催しています。

今年度は平成30年4月9日に開催し、19人の留学生が参加しました。中には日本に来たばかりで日本の交通ルールがわからない人もいましたが、講習会では、ビデオを使った教材や、クイズやゲームなどを通じて、わかりやすく日本の交通ルールや道路標識の意味を学ぶとともに、

交通事故を起こさない、被害に遭わないために気を付けるべきことについても教えていただきました。最後に参加者全員がそれぞれの交通安全宣言をパネルに書き込み、決意を新たにして講習会を終えました。

参加した留学生からは、「大変わかりやすく楽しみながら交通安全について学

ぶことができた」、「これからも交通安全に気をつけたい」といった感想が聞かれるなど大変好評でした。

当室では今後も留学生を含め全学の交通安全対策に取り組んでいきます。



日本の交通ルールについて学ぶ留学生

平成30年度開学記念行事について

今年で27回目となる開学記念行事が4月19日(木)に開催されました。運動会、USフォーラム、シンポジウム、懇親会の4部構成で、学生や教職員が交流を深めました。

第1部の「運動会」は、冒頭で鬼頭宏学長の挨拶と学生代表らの選手宣誓に始まり、天気にも恵まれグラウンドでの開催になりました。参加者は、赤、青、緑、黄色の4グループに分かれて、リレーや玉入れなど熱い戦いが繰り広げられました。今年は、青色チームが優勝しました。開学記念行事実行委員会委員長である眞鍋敬学生部長(薬学部教授)が講評を行い、閉幕となりました。



運動会



優勝は青色チーム

第2部の「USフォーラム」は、草薙キャンパス看護学部棟13411講義

室で開催しました。平成29年度の学内研究に採択した全学部の研究成果(教員特別研究推進費等)と文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(COC(Center of Community)事業)の報告会として、口頭発表20件、ハイライト口頭発表9件が行われました。



USフォーラム発表

第3部は、第2部と同じ会場で、シンポジウム「学生の主体的な関わりが大学を変える、自分を変える」をテーマに、津富宏コーディネーター(学生部副部長、国際関係学部教授)の司会により、丹羽智紀さん(大学院 薬科学専攻)、妹尾奈波さん(大学院 食品栄養科学専攻)、吉田真友さん(国際関係学部)、小野航汰さん(経営情報学部)の意見発表の後、鬼頭宏学長のコメントやフロアーからも発言があり、積極的な討論がなされました。



シンポジウム

第4部の「はばたきのつどい」は、学生ホールで、多くの教職員、学生の参加をいただき開催しました。おおとり会の役員の方から「ダンスサークルGENESIS」におおとり会賞が授与されました。

また、第1部の運動会の表彰やチャリーダー(GOLD ROWDIES)、ジャズダンス部、山本夏夢さんの一輪車のアトラクションが披露され、大いに盛り上がりました。



学生によるパフォーマンス



おおとり会賞の表彰

なお、今年度の参加者は、次のとおりでした。ご協力ありがとうございました。

区 分		参加者数(人)
第1部	運動会	135
第2部	USフォーラム	294
第3部	シンポジウム 「学生の主体的な関わりが大学を変える、自分を変える」	85
第4部	はばたきのつどい	308
計		822

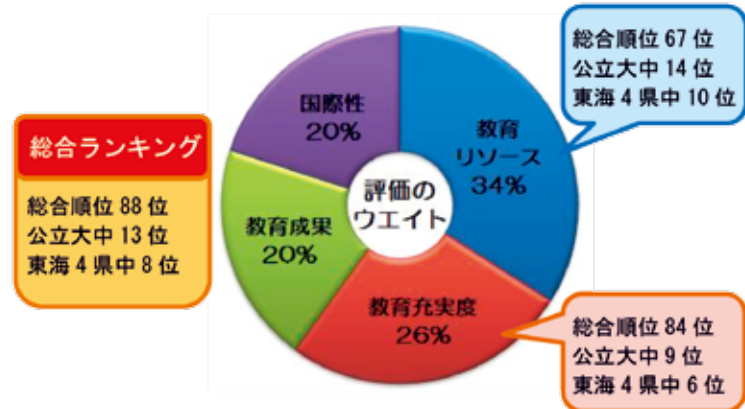
*第4部の参加者数は、参加券の販売枚数等による。



「THE世界大学ランキング日本版2018」で本学がランクイン!

全国の約350大学がエントリーした「THE (Times Higher Education) 世界大学ランキング日本版2018」において、本学は初めてエントリーし、総合ランキングで88位（公立大学中13位、東海4県大学中8位）にランクインしました。

THEは英国の世界大学ランキング最大手で、株式会社ベネッセコーポレーションと業務提携し、一昨年から「世界大学ランキング日本版」を実施しています。日本版では、大学の収入・学生数・教員数などの基礎情報に加えて、論文数や高校教員・企業・研究者を対象とした評判調査などにに基づき、「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」の4分野で、学部の教育力にウエイトを置いて評価が行われています。



本学は分野別ランキングでも、「教育リソース」で67位、「教育充実度」で84位にランクインしており、本学の地域に根

ざした教育及び研究が評価されるとともに、「入学した学生の能力を伸ばす大学」として評価されました。

就職内定率 昨年に続き好調 98.7%を達成

平成30年3月卒業（修了）者の就職状況は、学部生の就職内定率は99.2%で、全国の平均（98.0%）や県内大学の平均（96.1%）を大きく上回る結果となりました。

大学院修了者の就職内定率は、95.6%で、大学全体の就職内定率は98.7%でした。

●平成30年3月卒業者の就職状況（平成30年3月31日現在）

	薬学部	食品栄養科学部	国際関係学部	経営情報学部	看護学部	学部計	大学院	合計
就職内定率	100%	100%	97.7%	100%	100%	99.2%	95.6%	98.7%
(前年度)	98.7%	100%	98.1%	99.0%	100%	98.8%	95.5%	98.4%

統計：キャリア支援センター

グローバル地域センターが公開シンポジウム「これからの東アジアを占う」を開催

グローバル地域センターでは、地政学リスクが高まる東アジアにおいて日中韓の連携を強化する枠組みをいかにして構築するのかを提言するため、平成30年3月22日、グランシップ会議ホールにて、公開シンポジウム「これからの東アジアを占うー日中韓は連携を強化できるのか」を開催しました。

はじめに、双日総合研究所の吉崎達彦氏から、日中韓三国の経済分野での連携強化が地政学的な緊張を緩和する可能性があること、次に、キャン

相互依存関係にあり投資や貿易の共通ルールを作成する等の更なる連携が可能であることを御講演いただきました。続いて本学からは、現代韓国朝鮮研究センターの奥蘭秀樹准教授が複雑な朝鮮半島情勢を分かりやすく解説、グローバル地域センターの柯隆特任教授が中国の習近平政権の長期展望について発表しました。

パネルディスカッションは会場から寄せられた多くの質問に答えながら進行され、マスコミの報道では聞けない本音の議論が展開されました。

当日は県内外の企業や研究者、学生、一般県民等約250名が参加し、

関心の高さがうかがわれました。アンケートでも「現在の複雑な国際情勢を分かりやすく、楽しく学ぶことができた」と大変好評でした。

当センターでは今後も県民の皆様には有意義な情報を積極的に発信していきます。



パネルディスカッションの様子

食品栄養科学部・経営情報学部合同セミナー

生活の中の安全を考えてみよう —高校生のためのリスク学入門—

平成30年3月3日、食品栄養科学部と経営情報学部が合同セミナー「生活の中の安全を考えてみよう —高校生のためのリスク学入門—」を開催し、静岡県内の高校生18人が参加しました。

午前中は、講義、午後はロールプレイによるグループワークを行い、参加した高校生は、安全と危険の境目はどうやって判断するのか、「安全の科学」に携わる研究者とともに楽しみながら学びました。ロールプレイでは、事例を取

り上げながら安全、危険の判断についてそれぞれのロール（役割）を演じて行ってもらいました。高校生で構成された各ロールに食品栄養科学部と経営情報学部の学生がファシリテーターとして加わり、活発な議論を促していました。各ロールではなりきって演じてくれる参加者もいて、役者顔負けの演技力と発想力を見せてくれました。ファシリテーターの学生も最初は慣れない様子でしたが、最後は高校生の積極性に引っ張られる形で、議論をまとめていた姿が印象的でした。

参加者の生徒からは、「これまで

表面的にしか見てこなかったテレビのニュースなどを理解する新たな視点を学べた」と話してくれました。※本セミナーは「地（知）の拠点整備事業（大学COC: Center of Community）」の個別プロジェクトとして開催しました。



高校生の発表の様子

日本とロシアの宗教観の共通点を探るワークショップ

平成30年3月16日に本学の協定校であるモスクワ国立国際関係大学（MGIMIO）の交換教員として滞在されたセルゲイ・チロノフ先生が静岡市清水区の小島にある龍津寺を訪問し、日露の宗教観の共通点、相違点について意見を交換しました。チロノフ先生は、通訳として政治家（プーチン大統領とも!）の会談に出席することも多く、数多くの日本の書籍をロシア語に翻訳されている日本通の先生です。勝野住職は、子ども食堂（おじま分福食堂）、子ども寺子屋などの地域活性化の活動だけ

でなく、臨床宗教師としてホスピスなどでのボランティア活動にも従事されています。

龍津寺の勝野住職からは自己紹介に、地獄極楽図の読み解き、幸福になるための考え方について御教示いただいた後、座禅、写経をしてから、住職が最近取り組まれている活動についてお話いただきました。地獄絵図の読み解きでは、仏教とキリスト教（ロシア正教）との共通点が多いことなども分かり、日露の宗教観の共通点を多く見出すことが出来ました。なお、龍津寺にて土曜日開催の子ども寺子屋で

は、大学生ボランティアを随時募集中です。詳細は龍津寺のフェイスブックを参照してください。



参加者一同での写真撮影

モバイルファーマシー（在宅医療移動車）設置式典が行われました



テープカットの様子

平成30年3月30日、草薙キャンパスでモバイルファーマシー（在宅医療移動車）の設置式典が行われました。

モバイルファーマシーは、静岡県薬剤師会と本学が学生の育成や薬剤師の資質向上などのために2月に締結した包括協定の一環として本学敷地内に設置さ

れ、静岡県薬剤師会と共同管理を行います。モバイルファーマシーは、東日本大震災を教訓に宮城県薬剤師会が開発し、導入されるのは全国で10台目です。車両には、無菌環境の中での調剤に必要な機材や薬品棚、緊急時用の衛星電話などの設備が搭載されており、大規模な災害が発生してライフラインが寸断された場合でも、薬の調合などの薬局機能を果たすことができます。

また、モバイルファーマシーは移動可能である利点を活かして、へき地での医療に貢献することもできます。現在、へき地の在宅患者に医師が往診して処方箋を出しても、薬局で薬剤師が調剤して患者

宅に届ける必要がありますが、この業務をモバイルファーマシーで行うことにより、投薬の時間短縮をすることが期待できます。賀川薬学部長は、「山間部の過疎地など薬局が少ない地域に学生と出向き、地域医療をするイメージで授業を展開していく」と話しました。



車内の設備

平成29年度ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)養成事業報告



HPS国際シンポジウム&ワークショップの様子

HPSは英国で誕生した専門職であり、病児や障害児が治療で感じる苦痛やストレス、不安を軽減するために「遊びの力」を用いて支援します。本学では日本で唯一HPS養成教育を実施し、平成29年度も講座を開講しました。

■HPS養成講座

平成29年度HPS養成講座（10月～3月開講）は応募者19名のうち11名を、HPS養成週末講座（4月～3月開講）は応募者33名のうち11名を受講生として迎えました。両講座は短大初ベンチャーであるNPO法人ホスピタル・プレイ協会に委託し開催されました。

両講座は前期と後期の2期生となっており、講座期間中にはプレイ・プログラムの計画と実施、小児療養環境改善への取組などを通じ、より学びを深めました。英国から上級HPSであるクレア・ハーディ氏を講師に迎え、専門的な実践に基づくHPSに必要な知識と技術を学びました。18名が口頭試験に合格し、新たにHPSとなりました。子どもにやさしい医療の実現のための挑戦が始まっています。

■HPS国際シンポジウム&ワークショップ

平成30年2月10日に短期大学部において第10回HPS国際シンポジウム&ワークショップを開催しました。「もっとも弱い子どもたちの尊厳を大切にすることの関わり」と題して英国にて発達障がいや難病等の医療的ニーズを持つ0～25歳までの支援を行うエリザベス・リディア氏の基調講演、医療的ケア児のレスパイトケアや学習・復学支援、精神障がいを持つ子どもと親子支援を行うNPO法人等の活動紹介と提案、HPSによる遊びの

ワークショップなど多彩なプログラムを展開し、全国各地から163名が参加しました。

続く2月11日にはホスピタル・プレイ協会主催のHPS第6回スキルアップ講座「～すべての子どもとつながるために～子どもの尊厳を守るホスピタル・プレイの方法を学ぶ」を開催しました。この講座では多職種が連携し、子どもへの包括的アプローチと子どもが主体となって遊びを提案、促進することですべての子どもが視覚や聴覚などの感覚から学び成長できる機会を提供する支援方法の理論と実践を147名が学びました。2日間のイベントには福祉・医療・特別支援教育関係者をはじめ、学生や一般市民の参加も多数あり、これまで以上にホスピタル・プレイに関する関心の高さがうかがえました。



HPSスキルアップ講座の様子

中国の東華大学と延辺大学との大学間交流協定を締結

本学は、中国の東華大学（上海市）と延辺大学（吉林省延辺朝鮮族自治州延吉市）との大学間交流協定を締結しました。東華大学については、平成30年2月14日付けで両大学の学長が協定書にサインをして、郵便交換により締結しました。そして、東華大学との協定締結を記念して、3月22日に鬼頭宏学長ら本学教職員が同大学を訪問し、劉春紅副学長らと今後の交流推進に向けた会談を行いました。本協定に基づき、まずは夏休み期間中の短期中国語研修（単位科目）の実現を図り、その後、徐々に交流の幅

を広げて行くことを目指しています。また、延辺大学については、3月23日に調印式が同大学で行われ、鬼頭宏学長と同大学の金雄総長が日中両語による協定書にサインをしました。そして、両大学の専門分野に共通点が多く、今後幅広い分野で研究者及び学生の交流の可能性があることが、両トップの間で確認されました。本協定により、まずは薬学と国際関係学と関連した研究や教育を中心に、両校は国際交流を深め、協力関係を発展させて行くことになりました。



協定書にサインをする鬼頭学長と延辺大学金総長



鬼頭学長と東華大学劉副学長との会談

開催イベント告知

第32回 剣祭 10/27㊥・28㊥

今年のテーマは「祭魂ー平成最後の宴ー」です。毎年恒例のお化け屋敷や各種ステージ企画のほか、クラブ・サークル等による模擬店、ライブ&イベントが行われます。また、本学の教育・研究を体験できる模擬授業や、ゼミ、研究室の一般開放も予定しています。

☎054-264-5070 ✉tsurugi@u-shizuoka-ken.ac.jp
<https://mtnextstage1997.wixsite.com/tsurugisai32nd>

第22回 橘花祭 11/3㊥・4㊥ 小鹿キャンパス

短期大学部の大学祭です。今年のテーマは「YOUは何しに県短へ!!」です。保育士・介護士・歯科衛生士を目指す学生による展示や、クラブ・サークル等による模擬店、バンド演奏や橘花祭実行委員会主催のイベントを行います。卒業生だけでなく一般のお客様もお待ちしております。ぜひお誘い合わせのうえお越しください。

☎054-202-2603 <http://oshika.u-shizuoka-ken.ac.jp/>



短期大学部子ども学科 永倉 みゆき教授

—先生が取り組まれている研究について、また先生の研究から見る私たちの社会についてお聞かせください。

現在、取り組んでいるのは保育者の保育観の形成過程に関する研究です。戦後日本の教育が大きく変わった昭和20年代に幼稚園教諭となったひとりの保育者の保育観の変化を、本人へのインタビューに加え、紀要等の研究物、著作物や講演録等の資料を基に辿ることによって明らかにしようとしています。子ども子育て支援新制度の実施以降、待機児童解消ばかりが取り上げられ、肝心の園の保育の質保証がおろそかになっているように感じます。保育の質を担保するためには、一人一人の保育者が自身の哲学をベースにした保育観を持ち、多様な経験の中で深めていくことが重要です。一人の保育者の保育観の変容過程を追うことにより、どのような要素が関連して保育者の専門性が高まっていくのかを明らかにしたいと思っています。

—現在の研究を行おうと思われたきっかけは何ですか。

私は、大学教員になる前に幼稚園教諭、小学校教諭と様々な場に勤めた経験があります。その中で、最も自分の人間観、世界観に大きな影響を受けたのが、研究対象である静岡大学教育学部附属幼稚園副園長の藤野敬子氏でした。現在では、ノーベル経済学賞受賞者であるジェームズ・ヘックマン氏の本がきっかけで乳幼児期の教育の重要性が声高に言われるようになりましたが、それ以前から、そのことを経験に基づいて理解し、実践してきた保育者は多くおり、藤野敬子氏もその一人です。同じ実践を見ても、藤野氏がそこから読み取る物語は大変豊かであり、その子どもを捉える目はどのようにして培われてきたのか、それをぜひ明らかにしたいと思いました。保育とは、形として残るものではありませんから、どんなに素晴らしい保育であっても、その人またはその人を知る人がいなくなってしまうと、その保育があったという事実は消えてしまいます。だからこそ、それを文字

にして残しておく必要があると考えています。

—やりがいを感じるのはどのような時ですか。

ゼミに関して言えば、学生さんたちのテーマは「言葉」に関するものですが、私たちは、紙の上に書かれた言葉だけを対象にするわけではありません。保育の場で子どもとのやりとりから生まれる言葉は大変豊かであり、そこで実習をする中で、自分の体を通して感じた「言葉」について研究が深められたらと願っています。毎年いろいろな違う感性の学生さんが来て、その人にとってひっかかった「言葉」の側面について考えてくれるので、こちらは楽しませてもらっています。

—研究室での学生たちの様子を教えてください。

まだ今年度がスタートしたばかりですので、まだまだこれからですが、1年経つと、おしゃべりな私に負けないくらいいろ

いろいろな意見を遠慮なく言ってくれるようになります。周囲と協調することを願うあまり、相手を称賛することはできても、欠点を指摘したり、反対意見を述べたりはあまりしないということは、どこにも見られることかもしれませんが、最近の若い人は特に周囲に気を遣って生きているように感じられます。感じたこと、考えたことを率直に言い合えて、間違っても後をひかないような仲間関係が、ゼミに限らず大学時代にできたらよいと願っています。



研究室で実習について相談する様子

STUDENT VOICE

短期大学部
こども学科2年

金丸 朋夏さん



小さな頃から絵本が好きで、また、保育実習の際には毎回、子どもに絵本の読み聞かせをする機会をいただき、読み聞かせの楽しさや難しさを感じたことから、絵本に関する事を研究テーマにしたいと思い、永倉研究室を志望しました。永倉研究室はアットホームな雰囲気です。永倉先生は色々な話を聞かせてくれたり、個人的に進路の相談にも乗ってくれます。私の研究のテーマは、絵本についてです。子どもと絵本との関係を学んだ上で、ブックリストを作り、子ども年齢や発達に合わせて本を選べるようになって、将来、保育士になったら、子どもの興味や関心に合わせて本を選びたいです。

短期大学部
こども学科2年

古川 恵里さん



私は、子どもの言葉や保育者の言葉について興味を持ち、永倉研究室を選びました。また、永倉先生は静岡市の幼児教育に詳しいということを知り、就職についても永倉先生の指導、アドバイスをいただきたいと思いました。言葉について深く考える、子どもに寄り添うことができる保育者になりたいと思い「対話における子どもの言葉」というテーマを設定し、子どもたちはどんな言葉を使って思いを表現しているのか、どう広がっていくのか、対話の相手によって言葉は変化するかなどの研究を進めていきたいと考えています。

私は、自分が生まれ育った静岡市の幼児教育に関わりたくと考えています。将来は、静岡市の恵まれた環境（自然・地域とのつながり・子育て支援）のなかで、よりよい保育を追究していきたいです。

短期大学部
こども学科2年

松浦 紫苑さん



卒業研究で何を調べたいかを考えたときに、すぐに思いついたのが絵本のことでした。

絵本は非常に奥深く、子どもだけでなく読み手の大人にとってもプラスの影響があるのではないかと考え、「言葉」や「絵本」に関する研究をサポートしてくれる永倉先生の研究室を志望しました。研究室の雰囲気は非常に良く、先生も含め全員明るく楽しく活動しています。私は、子どもが好む絵本とはどのようなものかや、ストーリーについて、また絵本が大人に与える影響等、多くのことを研究していきたいと思っています。将来は保育者として、子どもの近くで共に生活し、子どもの心に寄り添うことのできる人間になりたいと思っています。

短期大学部
こども学科2年

石川 紗都さん



実習を通して、保育者が子どもにける「言葉」に興味を持ちました。これから実習もあり、子どもたちや保育者の言葉を聞くことができる場面もたくさんあるため、「言葉」について学ぶことのできる研究室を志望しました。保育者が子どもと接する中で、「あいまな表現」を子どもたちに使ったときに、まだ言葉を習得する段階にある子どもたちはそれらの言葉をどのように受け止めるのか、また保育者はどのように言い換えれば子どもたちは理解しやすいのかなど「保育の現場におけるあいまな表現（表現）」について研究を進めています。将来は、幼稚園教諭として、子どもたちが安心できるような存在になりたいと思っています。



永倉みゆき (ながくら みゆき)

常葉学園大学短期大学部保育科准教授、静岡県立大学短期大学部社会福祉学科教授を経て、2016年4月に静岡県立大学短期大学部にこども学科が新設されたことに伴い、こども学科の教授に異動した。お茶の水女子大学家政学部児童学科卒業であり、静岡市内の小学校教諭、静岡大学教育学部附属幼稚園教諭としての実務経験を持つことから、児童学に関する分野の研究に取り組んでいる。また、読書活動の啓発、普及にも取り組んでおり、静岡市子ども読書活動推進会議では会長に就任し、静岡市図書館協議会では副会長に就任するなど要職を歴任している。お茶の水女子大学家政学部児童学科の出身、静岡大学大学院教育学研究科幼児教育専修修了。

教員 1名 学生 4名

活躍する卒業生

The graduate who plays an active part



お名前 山田 良明さん

卒業学部 食品栄養学部栄養生命科学科
(2016年3月卒業)

勤務先 クックパッド株式会社

Q1. 現在のお仕事について教えてください。

Amazon Echo や Google Home など、スマートスピーカーと呼ばれる端末向けの新規サービスを開発しています。専任の担当が自分1人なので、企画から、デザイン、実装まで幅広く携わっています。

自分が心から欲しいと思えるサービスを作ること、自分の意思決定した部分に対して世間から評価を受けることができるので、とてもやりがいを感じます。

Q2. 大学生活(ゼミやサークル)で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは何かありますか？

3年生の時、栄養教育学実習で偶然 iPad を使った栄養指導のカリキュラムを作成することになりました。当時はあまり自分のスキルに自信が無く隠れてプログラミングの勉強をしていましたが、思い切って栄養指導用のアプリを作成し発表したところ、高評価を受けたので自分のスキルに自信を持つことができました。このあたりから職業としてのエンジニアに興味を持つようになりました。当時のグループメンバーにも感謝しています。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

静岡県という土地は穏やかで、のびのびとした環境に身を置くことができたので、自分のやりたいことに専念することができたことです。また、授業の間の休み時間や研究の空き時間などずっとパソコンを弄ったりしていたので不審がられることもあったかもしれませんが、特に何も言わずにのびのびとやらせてくれたことです。

Q4. 今後の目標について教えてください。

個人レベルでは、自分の欲しいサービス/製品を実現するための技術力を手にいれることと、常にそれを維持し続けることです。

サービスの実現に必要なプログラムの実装は人並みにできるものの、新しいサービスの種になる日常の課題発見や情報の整理が苦手なので克服していきたいです。

少し視野を広げると、生きてうちに世のデファクトスタンダードになるようなモノを作りたいです。

Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

もし何かやりたいことを見つけて、そのために今持っていないスキルが必要になった時、「努力」するよりも「夢中」になった方が習得が早いので、まずはその「やりたいこと」を大好きになるための行動を起こすのがいいと思います。例えば本でもネット記事でもなんでもいいですが、自分の「やりたいこと」を好きになる材料をかき集めるといいと思います。



お名前 大橋 優莉さん

卒業学部 薬食生命科学総合学府環境科学専攻
(2017年3月卒業)

勤務先 静岡ガス株式会社

Q1. 現在のお仕事について教えてください。

静岡ガスの幹線・送出管理センターで毎日各地のお客様へガスが安全に、安定的に送られるように管理しています。各地のガスの圧力や流量の状態を遠隔監視、操作により管理したり、現場設備の点検などを行います。更新時期をむかえた監視制御システムそのものを新しく作り替える業務にも関わっており、自分のアイデアを発信し、実行していけることにやりがいや楽しさを感じています。

Q2. 大学生活(ゼミやサークル)で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは何かありますか？

授業科目のインターンシップを受講し、環境コンサルタントと食品という全く異なる分野の仕事を経験したことです。品質管理の試験から報告書作成まで実際の業務に近いことを様々な経験させていただき、大学内での研究とは違った、お客様に対して仕事をする責任の重さを実感しました。どちらも一般公募ではなく県大生を対象としたインターンシップであったため、他大学に進学していたらできなかった体験をすることができました。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

環境という分野についての基礎を幅広く学べたこと、そしてそれぞれの分野に精通した先生方が近くにいたことです。環境専攻の学生は比較的人数ですが、そのぶん先生や友人との距離が近く、研究のために機材を借りる必要があったり実験がうまくいかなかったときには他研究室の先生方にも力を貸していただき、アドバイスもいただきました。このような環境があったからこそ、自分の納得できる充実し

た研究生生活を送れたと感じています。

Q4. 今後の目標について教えてください。

ガス供給分野のプロフェッショナルを目指したいです。安定的な供給を考えるには、ガスそのものや現場のことはもちろん、電気、システム、エネルギー管理、法律に至るまで、必要な知識は多岐にわたります。想像していたよりも就職してから勉強することは多いですが、一年前より知識が増え、成長できていることを実感したときはとてもうれしいです。今後は積極的に資格取得にもチャレンジしていきたいです。

Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

学生の時間は、自分の選んだテーマをとことん突き詰めることができる貴重な時間だったと感じています。2年間かけて取り組んだ研究はもちろんですが、趣味の海外旅行や美術館めぐりにもたくさん行ってきました。周りにとらわれず、好きなことに向かって思い切った挑戦が出来るのは学生の特権かもしれません。ぜひこの貴重な時間のなかで自分の好きなことを見つけ、何かにチャレンジしてほしいです。



産学民官連携

本学が取り組む地域貢献、産学民官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

学生サークルが「茶の花スイーツピザ」を考案

食品栄養科学部の学生サークル「Food Labo(フードラボ)」が、深蒸し茶で有名な掛川市の企業、佐々木製茶株式会社とのコラボレーションで、県内産のお茶やみかんを使用したスイーツピザを考案しました。ピザは平成30年5月2日から4日にかけて佐々木製茶株式会社の店頭で行われた「新茶大売り出し」にて販売され、盛況のうちに終了しました。今後は大学売店等での販売を検討しています。

インスタ映え間違いなし!

掛川産の抹茶を使用した鮮やかなグリーンソースの上に、ナチュラルチーズと三ヶ日みかんピールで可愛い

お茶の花の形を表現しました。味はもちろん、見た目も楽しめるピザです。

Food Laboの活動

静岡県立大学の公式サークルです。食品栄養科学部の学生が所属しています。未来の管理栄養士や食品開発者たちが、静岡の名産品をもっと広く知ってもらうために活動しています。Food Laboは、大学祭でこれまでに「静岡たこ焼き」と「抹茶のポップコーン」を販売してきました。今後も地域の活性化につながるような様々な活動に取り組んでいきます。



新茶大売り出しにて



日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2018への参加

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)中国総合研究交流センターと中国国家外国専門家局との共催による「日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2018」が、5月12日から15日まで中国広東省広州市で開催されました。このフェアは、大学交流、留学促進及び産学連携を目的に日中の大学、研究機関等を対象とした交流イベントで今回が13回目です。

JSTの要請を受け、本学の鬼頭学長と薬学部の南彰講師が参加しました。

このフェアで行われた「日中大学学長等個別会談」では、鬼頭学長が中国の大学長らとの意見交換を通じて、トップレベルの交流を促進しました。また、日本の大学や大学発ベンチャー

企業など45の団体・企業が研究成果や技術を展示した「日本技術展」では、本学の南講師が、「低血糖副作用を回避できる新規糖尿病治療薬の開発」について発表し、2時間のうちに、ブースには現地の医科大学や理工大学、化工大学等の研究者や民間企業の代表者など多数訪れ、南講師との熱心な情報交換が行われました。

また、視察で訪れた大学城などでは、複数の大学の集積状況や大学と企業との連携など現代中国の活気を感じる事ができました。

今回の参加をもとに、中国の大学や企業との連携を強めていきたいと考えています。



「日中大学フォーラム」で本学を紹介する鬼頭学長



「日本技術展」ブースでの南講師

図書館 だより

図書館で活躍する学生

図書館の運営に携わっているのは、図書館職員だけではなく、アルバイトなどの学生スタッフにも、図書館サービスを担ってもらっています。近年、学生との協働によって図書館の利用促進やサービスの活性化を図る大学図書館が増えており、草薙図書館と小鹿図書館でも学生スタッフが活躍しています。

草薙図書館

授業期間中の平日の昼1時間と夜間3時間、一階のインフォメーションカウンターや閲覧室、書庫等で学生アルバイトが活動しています。主な活動は、貸出・返却などのカウンター業務と、返却された図書を書架に戻す業務です。

平成27年度以降は「学習サポーター」としても活躍しています。一階にある学習サポートデスクで、図書館利用サポートや研究のための文献検索サポートなどの学習支援を行っています。本年度は国際関係学部と経営情報学部から3名の応募がありました。学生の目線からのサービスは、多くの学生の学びを支えています。

小鹿図書館

5名の学生がボランティアとして活躍しています。主な活動は、知って得する図書館の情報発信や魅力的な展示コーナーをつくることで、多くの学生から高い評価を得ています。

あなたの物語は図書館から始まります。ご応募をお待ちしております。



私の一冊の本

紹介者 看護学部 講師 佐藤 瑠美

紹介図書 「岩波人文書セレクション 自由論—自然と人間のゆらぎの中で」



著者:内山 節
出版社:岩波書店
出版年:2014年1月
請求記号:104/U25
ISBN:978-4-00-028678-7

本書は、哲学者による「自由」についての思索です。1995年から約1年間『信濃毎日新聞』に掲載された記事の単行本です。自由とは何か。どこから来て何を意味するのか。著者によると西洋の近代革命から生まれた言葉であるといえます。この言葉は、矛盾のない社会秩序が存在するという当時の時代の精神と結びついており、「近代的自由」と呼ばれています。

近代的自由に懐疑する立場をとり、著者の自由論は展開されていきます。日本と西洋の歴史の比較、それから古典的思想を検討する方法で近代的自由を問っていきます。

例えば、フランス政治学者のトク

ヴィルが18世紀アメリカ大陸訪問で人間の「精神の習慣」を発見した有名な説に触れています。産業社会の発達によって人間は同じような精神の習慣を持つようになり、それは人間の平準化を意味します。こうなると人間は自分の生き方や心に疑いを持たなくなります。そのうえ平準化された精神と価値基準の持ち主たちが、社会の多数派を形成し、それ以外の精神の持ち主を排斥する傾向にあるという問題が示されています。

近代の要素には、市民社会の形成とともに18世紀イギリスの産業革命から始まったとされる資本制の経済の仕組みの確立が含まれています。この制度に則り戦後の日本は経済力と結びついた自由を享受することができました。ところが経済的な自由と引き換えに、時間で貨幣価値に換算することのできない非貨幣的な豊かさや労働の自由がみえなくなってきたのです。

というのも人間はものごとを言葉でとらえ理念化する存在です。その知性ゆえに明治時代に翻訳語として「自然」が入ってきた時、人間が「森羅万象」をとらえることや「もののあわれ」を通して物事を認識する精神も過去のものになっ

たと指摘しています。

これらは人間の本性による苦悩であり、だからこそ著者は日本的な自然観にヒントを得て思索を進めたように思います。昔の日本では、自由は自在という意味に近かったといえます。それは、「おのずからそうあるさま」である自然じねんという言葉に通じており、自在に生きることは自然な生き方と矛盾がなかったとあります。こうした検討を積み重ね、頁をめぐる毎に著者の自由に関する哲学は深みを増してゆきます。

自由とは何か。本書を読み終えたなら、答えを他者に与えられることよりも問いを立てる大切さが理解でき、物事の本質を見抜く鋭さも身についてくるのがわかるでしょう。

いくつもの名著が紹介されているのも本書の魅力の一つです。古典が歴史の変化と流行に関わらず読み継がれるには理由があります。人間や社会に関する本質的な原理が書かれているからです。気になった本は原著を手に取り、本がボロボロになるまで読み込むとよいでしょう。良書を選びじっくりと読みこみ自分のものにするには、いくつもの場面で私たちを助けてくれます。



教員・学生の受賞

各受賞の詳細については本学公式サイトニュース&トピックスからご覧いただけます。

	受賞者名	所 属	受 賞 名
教 員	吉成 浩一 教授	薬学部	平成 30 年度日本薬学会学術振興賞 (第 4A 部門)
	雨谷 敬史 教授	食品栄養科学部	日本環境化学会 環境化学学術賞
	坂田 昌弘 教授	食品栄養科学部	日本環境化学会 環境化学功績賞
	山口 深雪 助教	薬学部	平成 30 年度有機合成化学協会東海支部奨励賞
	三宅 祐一 助教	食品栄養科学部	日本水環境学会 論文奨励賞
学 生	石津英里子・倉田 卓磨・沼田 実	薬食生命科学総合学府	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア (A&S) 2017 優秀ポスター賞
	中川 夏実・増田 美里・寺尾 琴音	食品栄養科学部	
	加藤 愛理	食品栄養科学部	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア (A&S) 2017 特別賞
	大槻 七海・鈴木 麻裕・宇田 菜美映・村山 友樹・鷹野 仁美・溝口 篤志・八木 優歩・山田 しおり	経営情報学部	第 3 回知財活用アイデアプレゼン大会 in 静岡 優秀賞
	杉本 実穂	薬食生命科学総合学府	第 21 回日本病態栄養学会 若手研究独創賞
	魚取 あすか	国際関係学部	第 27 回 (2017 年度) 小泉八雲顕彰文芸作品コンクール一般の部 最優秀賞
	澤野 華世子・阿部 風香	国際関係学部	第 27 回 (2017 年度) 小泉八雲顕彰文芸作品コンクール一般の部 優秀賞
	榛葉 佳奈・奥野 華純	国際関係学部	第 27 回 (2017 年度) 小泉八雲顕彰文芸作品コンクール一般の部 奨励賞
	内海 未央	薬食生命科学総合学府	第 33 回茶学術研究会講演会 奨励賞
	瀧本 伸吾・西村 拓馬	薬学部	
	筒井 優介	薬学部	静岡県立大学コミュニティフェロー 特別表彰
	瀬尾 真紀子	食品栄養科学部	
	村松 可菜	食品栄養科学部	
	澤野 華世子	国際関係学部	
	松井 杏美	国際関係学部	
	小泉 蓮	経営情報学部	
	松田 佳子	看護学部	
	中山 綾花	食品栄養科学部	
	青柳 有紀・三枝 香都貴	薬学部	第 138 回日本薬理学会関東部会 優秀発表賞
	新堂 真生	食品栄養科学部	一般社団法人日本環境化学会が主催する第 27 回環境化学討論会 RSC (Royal Society of Chemistry : 英国王立化学会) 賞
榛葉 有希	薬食生命科学総合学府	18th International Symposium on Atherosclerosis (第 18 回国際動脈硬化学会大会) Young Investigator Fellowships	

※H30年1月から6月末までに本学の公式ホームページに掲載依頼のあった受賞を掲載しています。

教員人事

◆ 採 用

平成30年4月1日付

近 藤 啓	薬学部薬学科	教 授
古 島 大 資	薬学部薬学科	助 教
田村 謙太郎	食品栄養科学部環境生命科学科	准教授
大 槻 尚 子	食品栄養科学部栄養生命科学科	助 教
川 上 由 香	食品栄養科学部食品生命科学科	助 教
繁 田 堯	食品栄養科学部食品生命科学科	助 教
寺 田 祐 子	食品栄養科学部食品生命科学科	助 教
本 田 沙 理	食品栄養科学部食品生命科学科	助 教
富 澤 かな	国際関係学部国際言語文化学科	准教授
リダンゴールアラン	国際関係学部国際言語文化学科	准教授
小 西 敦	経営情報学部経営情報学科	教 授
落 合 康 裕	経営情報学部経営情報学科	准教授
木 村 綾	経営情報学部経営情報学科	講 師
山 下 早 苗	看護学部看護学科	教 授
永 谷 幸 子	看護学部看護学科	准教授
山 口 みのり	看護学部看護学科	准教授
下 吹 越 直 子	看護学部看護学科	講 師
本 家 淳 子	看護学部看護学科	助 教
藤 森 敦 之	言語コミュニケーション研究センター	准教授

● 特任教員

遠 山 早 紀	食品栄養科学部環境生命科学科	特任助教
北 上 真 一	経営情報学部経営情報学科	特任教授
ジェイコブ ローレンス	言語コミュニケーション研究センター	特任講師
ジェームズ ハーバツハ	言語コミュニケーション研究センター	特任講師

● 教員昇任

浅 井 知 浩	薬学部薬学科	教 授
新 井 英 一	食品栄養科学部栄養生命科学科	教 授
市 川 陽 子	食品栄養科学部栄養生命科学科	教 授
栗 木 清 典	食品栄養科学部栄養生命科学科	教 授
水 野 か ぼ る	国際関係学部国際言語文化学科	教 授
橋 川 裕 之	国際関係学部国際言語文化学科	准教授
東 野 定 律	経営情報学部経営情報学科	教 授
渡 邊 貴 之	経営情報学部経営情報学科	教 授

◆ 退 職

● 専任教員

平成30年3月31日

村 岡 大 輔	大学院薬学研究院創薬探索センター	助 教
熊 谷 裕 通	食品栄養科学部栄養生命科学科	教 授
島 田 剛	国際関係学部国際関係学科	准教授
斉 藤 和 巳	経営情報学部経営情報学科	教 授
伊 大 榮	経営情報学部経営情報学科	教 授
古 賀 震	看護学部看護学科	教 授
西 川 浩 昭	看護学部看護学科	教 授
永 谷 実 穂	看護学部看護学科	講 師
石 垣 範 子	看護学部看護学科	助 教
石 川 真	看護学部看護学科	助 教
松 浦 明 美	看護学部看護学科	助 教

● 特任教員

天 野 剛 至	言語コミュニケーション研究センター	特任講師
ピーターズ・マイケル	言語コミュニケーション研究センター	特任講師
平 山 裕 一 郎	薬学部薬学科	特任助教

● 専任教員定年退職

六 鹿 茂 夫	大学院国際関係学研究所国際関係専攻	教 授
五 島 文 雄	国際関係学部国際言語文化学科	教 授
板 井 茂	薬学部薬学科	教 授
奥 直 人	薬学部薬学科	教 授

はばたき

137号 2018年7月15日発行
発行元 / 静岡県立大学広報委員会

- 静岡県立大学広報企画室
- 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1
- TEL / 054-264-5130 ■ FAX / 054-264-5099
- E-mail / koho@u-shizuoka-ken.ac.jp
- URL http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/

● 次号138号は2019年2月発行の予定です。



ご意見・情報をお寄せください。

記事に関するご意見・ご感想、今後取り上げてほしいテーマなど、ご要望をお待ちしています。また、本学の学生、教職員の教育・研究活動のほか、ご卒業生などに関連する情報もお寄せください。今後の企画の参考にさせていただきます。

卒業式袴の専門店

レンタル

静岡の貸衣裳の老舗
京都むらまつ



静岡県立大学 大学・大学院

をご卒業予定
の皆様

学校内（草薙校舎）で、式当日お支度！学内展示会も開催！

check 1 「式当日、便利」

着付・ヘア・写真会場：学校内
衣裳返却・着替え：学校内
送迎有り：学校⇄グランシップ
※送迎バスは学校が手配して下さいます。

check 2 「県大内で予約できる」

学校内（草薙校舎）展示予約会
場所：上食堂1階ラウンジ
時間：11時～17時※16時半最終入場
日にち：2018年
●10月15日（月）16日（火）
●11月12日（月）13日（火）
※日にちの変更がある場合は、売店に提示致します。カタログは9月末、売店に設置予定です。
●グランシップでも7/20、11・12月に展示会開催！詳細は当社HPをご覧ください。

check 3 「その他」

●短大生は当社ホームページをご覧ください。
●看護学部は、授与式の場所により、お支度場所が変更となることがあります。
※詳しくは、当社ホームページをご覧ください。
「大人気レトロモダン、正統派、高品質～リーズナブル、品数に自信があります！」

京都むらまつ お店でも予約OK！
場所：静岡市葵区馬場町25-2（静岡浅間通り商店街）
電話：0120-144081（フリーダイヤル）054-252-5293（代表）
営業：9時半～17時（水曜定休、お盆・正月休み有）



<http://www.kyoto-muramatsu.jp>

HP検索 京都むらまつ

「はばたき」読者限定！

県大生応援キャンペーン!!

〈お申込時にこの冊子をご持参下さい〉

9月末までにご入校の方に TDLパスポートが ペアでもらえる!

※普通自動車で入校の方対象です
※既定解除の方は対象外とさせていただきます

**古庄は
特典がいっぱい**

優先予約で短期取得可

再検定料一切不要

技能オーバー無制限保証

夜間料金無料

免許は取ったけどしばらく
乗ってないから運転が不安で…

**卒業生特典
ペーパードライバー講習
1時間無料**

※普通車のみ：2・3・8月を除く

お申込みは
フリーダイヤル **0120-155-168**

0120 FreeDial

公認 **古庄自動車学校**

〒420-0812 静岡県静岡市葵区古庄3丁目11番15号
TEL.054-261-1551
FAX.054-264-0940
Eメール: <http://www.flushyou.co.jp>
main@flushyou.co.jp

携帯からもOK
※プラン変更は別途お申し込み